

八月二十七日 己時與謙吉散歩。徳令。

勲平。寂忍。宝幢隨行。到渡里。訪松

本龍山。釈玄海。惠禪。登吹上觀音閣。

三子携茶菓來贈。發行厨焉。未時下山。

過新原。訪児玉氏而帰。夜釈雲崖來話

小酌。

嘉永六年（一八五三）

三月十二日 午牌與棟園。範治。孝之

助。往謁吹上山觀音堂。

時有開

棟園家人

先在焉。開行厨於堂側稻生祠。

時有開

移時而

帰。是日天氣清美。綠陰始芽。

などとある如くである。また淡窓の吹上觀

音參詣は、しばしば籠の長善寺での集いの後にも行われている。すなわち

・文政二年（一八一九）

二月十三日 與益多赴長善寺會。尋正月十三日艸堂會也。釈惠禪為主。

既至。同益多。惠禪。蒲池久市。登吹上山。散步山上。頃之帰寺。後

至者。元吾。熊谷昇。佐藤玄猷。二更帰家。

・文政二年（一八一〇）

二月十七日 之長善寺。応玄海招。尋正月新原之會也。會者釈惠禪。

児玉茂。蒲池久市。館林清記。益多。日暮同益多登吹上山。入夜而帰。

長善寺は、慶長二年（一五九七）に淨土真宗寺院として開基したとされ

る。寛永十二年（一六三五）に長善寺と号した。正徳二年（一七一三）に鐘樓門を建立し、享保十九年（一七三四）には本堂を再建している。このうち鐘樓門は国登録文化財となっている。

現在も長善寺の横から吹上觀音に登る小道がある。長善寺—吹上觀音—

吹上山というコースは、永山布政所にも近く、咸宜園からの遊山・詩会・

散歩のコースとしては、もつとも近場のコースといえるものである。



長善寺

岳林寺（図1・10）

花月川以北といえば、欠かすことができないのが名刹岳林寺である。この岳林寺と淡窓・咸宜園のかかわりは、ここではいちいち特記しないが、寺の概要是ここに見ておきたい。

岳林寺は『豊西記』『造領記』『日田郡誌』

などの記録によると、日田郡司大蔵永貞が元の渡来僧明極禪師に帰依し、禪師を開基として康永元年（一三四二）に創建したと伝える。後、大蔵氏の衰亡と戦国の争乱の中で一時荒廃したが、その後十六世紀に再興された。往時、その寺域は吹上台地を背にして、東西に広く展開していた。

境内の市立歴史資料館には、開山明極禪

師の頂相である「木造明極楚俊坐像」、木造釈迦三尊像などが収蔵・展示されているほか、寺院再興後の建設にかかる本堂・庫裏・三重塔等の建物、宝筐印塔・六地蔵石幢等の各種石造建造物のほか、明極禪師と歴代住職および日田代官・郡代の墓碑群がある。



岳林寺

永山城・永山布政所（図1・11、12）

花月川以北における淡窓・咸宜園の遊山等のかかわりということでは、やはり永山城と永山布政所をあげなければならない。この城の沿革、そして永山布政所の設置と、その後の代官所（官府）と淡窓・咸宜園については、別稿にゆずるとして、ここでは「遊山」等の場としての永山（城）について見ておきたい。

文禄二年（一五九三）、小川壹岐守光氏が丸山城（永山城）を築いた。

その後、元和二年（一六一六）石川主殿頭忠総が入り、丸山城を永山城と